第 2011-04 号

恵みと真理のニュース

2011 年 9 月の二次　恵みと真理教会
大韓民国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ “御言葉による喜びを悟らせて下さり感謝します”

私は結婚前に友達と一緒に何回か教会に行きましたが、信仰生活はしていませんでした。結婚後、1992年に安山へ引っ越して來ました。恵みと真理教会の首席区域長が隣に住んでいまして、私を伝道しました。当時、長男が生まれながらアトピー性皮膚炎を病んでいたためとても苦労しました。首席区域長が伝えてくれた神様は暇で気楽な人たちが信じるお方だと思っていたため断りました。しかし、首席区域長は諦めずに続けて私を伝道しつつ、イエス様が長男のアトピー皮膚炎も治して下さると言いました。長男のアトピー皮膚炎が治せるという話で私の心が動きました。
1994年5月首席区域長と一緒に教会へ行って礼拝を捧げました。
その後、次男が生まれました。この子もアトピー性皮膚炎を病んでいました。ある日、次男をお風呂に入れているとき、私の腰を痛めました。いろんな方法で治療しましだが、良くなるのはそのときだけでまた痛みが始まりました。病気が早く治るように祈ってましだがそうならなかったので辛かったです。しかし、首席区域長の愛と積極的な面倒見のおかげで続けて教会に通いました。当時、私は婚家の家族との葛藤があったため大変な時が多くありました。小さな信仰でしだが、誰にも話せないその事情を賛美しながら神様に祈ると心が平安になりました。
2006年に聖霊のバプテスマを受けました。前は神様への信仰と愛より人に頼りながら信仰生活をしていた私にとても大きな変化がおきました。神様の御言葉に対する信仰が固くなってきました。メッセージを聞くときも、聖書を読むときも、溢れるぐらい豊かな恵みを受けました。生きている神様が私と共にして下さる事実を信じて神様の御言葉に頼り、大胆に祈ることができました。そして、私の祈りに神様が答えて下さるのを経験するようになりました。いつもの通りに聞いていた主日礼拝のメッセージでしたが、聖霊のバプテスマを受けてから当会長牧師先生のメッセージがどんなに恵み深いのかを、今まで知らなかった幸せが礼拝ごと感じるようになりました。そんなある日、主日礼拝を恵みの中で捧げた後、腰の痛みが癒されました。それだけではないでした。長い間、首が痛くて自由に動くこともできなかったのにその症状もいつからか癒されて首を自然に動くことができました。礼拝ごと子どもたちを連れてきて祈りを捧げました。また、病気の癒しの時間ごと切に祈りました。家でも神様の御言葉に頼って祈りました。そして、神様が祈りに答えて下さり、次男のアトピー性皮膚炎がきれいに治りました。長男も症状がとてもよくなり、楽な生活をするようになりました。神様の御言葉に対する確信をもって信じて祈ると神様からの治療と答えが現れました。聖霊のバプテスマを受けてからいろんな面で信仰的な新しい経験をするようになりました。
2009年、うつ病の症状があったお母さんが私の家に10日間泊まりました。私は区域の聖徒たちと作定祈りをしながらお母さんと一緒に礼拝を捧げました。そして、当会長牧師先生が頭に手を置いて祈って下さいました。どころが、驚くべきことは症状がきれいに癒されました。ハレルヤ!
長男が大学に進学するときのことです。担任先生が推薦した大学とクリスチャン財団である二つの大学に願書を出しました。担任先生が推薦した学校は合格して、残り二つの大学は予備合格者に入っていました。あとで聞いた話によると担任先生が推薦してくれた学校は異団宗教団体が運営している学校でした。私は長男に 「 神様だけを頼りなさい。そして思い切ってこの学校を諦めましょう。 」 と勧めました。神様が下さる結果だけを待ちながら祈りました。結局、クリスチャン財団の大学から合格の連絡がきました。そのおかげで今長男はその大学に通っています。長男は大学への進学を通してイエス様がすべてのことに関わって下さる事実を自ら悟りました。また、信仰が成長する機会になりました。
信仰生活を始めてからもう17年経ちました。振り返てみると最初は何をどう信じれば良いか知らず、ただ私を導いてくれた首席区域長について通っていました。少しつづ賛美を通して慰められました。それから聖霊のバプテスマを受けた以降、神様の御言葉に確信をもって祈りました。また、その祈りの答えも豊かに満たして下さいました。今は神様の御言葉を聴いて、読んで、黙想する喜びを味わいながら暮らしています。エレミヤ15章16節
「　私はあなたのみことばを見つけ出し、それを食べました。あなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました。万軍の神、主よ。私にはあなたの名がつけられているからです。」　この言葉を体験しながら喜んで暮らしています。
今まで私を救って下さり、私の人生を導いて下さった神様に感謝します。子どもたちと旦那の信仰がもっと成長するため努力するし頑張って祈ります。また、御言葉を通して近づいてくる神様の恵みとそれによる喜びをたくさんの人々と分かち合いながら生きていきます。アーメン

［信仰コラム］　自暴自棄しなしで自我抛棄しろう。

マタイの福音書16章24節 「 それから、イエスは弟子たちに言われた。“だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。”」
放棄という単語の辞書的な意味はやっていることを途中にやめてしまうこと。または、自分の権利や資格を使えなく捨ててしまうのを言います。そのため放棄するという言葉はだいたい損失、敗北を連想させる否定的なイメージで認識されています。しかし、信仰的な面での放棄は肯定的な意味をもっています。神様の前で自我抛棄を学ぶことが信仰生活であります。自暴自棄は艱難と困難に直面して恨んだり、不平したりして絶望の中に落ちることを言います。反面、自我抛棄は艱難と困難に直面して自己中心的な態度と我執を捨ててもっと神様に頼るようになることを言います。神様の命令と約束に対してそれを否定しているすべての理論を閉鎖すべきです。これが信仰的な自我抛棄であります。神様はこのように自我抛棄になっている人を通して神様の知恵と権能を表して下さいます。モーセが召命を受ける場面を通して私たちは教訓を得ることができます。そして、葦の海でイスラエルの民たちが危機に直面した時の光景を考えてみて下さい。自暴自棄するしかない状況であるとしても神様の御言葉に耳を傾けて自我抛棄をすると、神様の大きな権能の表しを経験するようになります。
　偵察に来た十人の人たちとヨシュア、カレブが直面した問題と状況は同じことでありました。しかし、彼らが得られたのは全然違う結果でした。偵察に来た十人の人たちは神様の前でわざわいで死に至りました。しかし、ヨシュアとカレブは後日、イスラエルの子孫を率いてガナンの地を領しました。神様は自暴自棄する人は捨てます。問題と艱難が臨んでも神様の御言葉に耳を傾けて御言葉に反する自我を諦めて御言葉通りに考えて、話して、行動する人は神様の権能の表しを見ることができます。
自我抛棄とは、他の言葉で自己否認とも言えます。主の御言葉を拒否して判断する自我を捨てるべきであります。みなさんはどんな問題と艱難を遭おうが、それによって自己を依頼していたことを徹底的に取り除く機会に見なして下さい。ただ、死者をよみがえらせる神様だけを頼ることで、わざわいを転じて福を成すのと慈しみのしるしが受けるようにお勧めます。神様の御言葉に反する自我意識を断乎に捨てて自我抛棄を断行することで、どんな立場に置かれても落ち込まないで神様の御言葉に相応しい考えと言葉を使いながら行動しましょう。そして、自分自身に頼らず、神様だけに頼る自我抛棄の境地に至らすようにお願いします。こうして、神様の真実さと、慈しみ、権能を経験するように願い求めます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

正しい認識と積極的な実行

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書：ルカ１７；２６-２９

認識とは事物を気づいて知ることで実行とは実際に行うのです。どんな事物や対象の真の姿と状態を認識する事と認識したまま信じて実行することは我が生にあって必須的な要素です。
正しい認識と積極的な実行は信仰生活にも決定的に重要要素です。救われてから主様を喜ばせて主様の権能を体験出来るまで必ずしもある要件です。

まず、正しい認識に関して話して上げます。

ある事物と対象に違った知識を持っていながらもそれが正しいと認識していれば、まるで間違った表記の道路案内板を道印で行くのと同じです。
どうでも、道案内看板を信じ優しい心で熱心に行くだけで、願う目的に到達されるのではありません。行けば行くほど困難な状況に処するようになります。
正しくない認識をしたのはその結果に対して自分の責任にするしかありません。事物に対する実像その真実について正しい認識を持つことはとても重要です。
事物の実状と真実に対する違った認識による被害は色んな場面で至りますが、一番悲劇的なのは神様の裁きを受け滅びるのです。
ルカ１７章に記録されたのは
『ノアの時代にあったようなことが、人の子が現れるときにも起こるだろう。
ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていたが、洪水が襲って来て、一人残らず滅ぼしてしまった。ロトの時代にも同じようなことが起こった。人々は食べたり飲んだり、買ったり売ったり、植えたり建てたりしていたが、
ロトがソドムから出て行ったその日に、火と硫黄が天から降ってきて、一人残らず滅ぼしてしまった。』（ルカ１７;２６-２９）
降水裁きに対したノアの家族と当時の人たちの認識差は救いと滅びをもたらす結果になりました。
ソドム城の人々は天使たちがロトを通って伝えた審判の警告について正しく認識出来ないでした。
彼らは神の啓示より眼に見える現状をもっと信じたから真実を認識出来なかったのです。その結果、硫黄火に燃える裁きを受け滅びました。
物事の実像、事件の真実を正しく認識しないのは悲劇です。
人々が正しく認識すべきの中で一番優先されるのは神様に対する認識です。神様を真実に認識しなければ、以外のすべての知識や行為は倒れる砂の上に建てた家のようになって終います。
神様に対する正しい認識が無ければ人間の実状を分からないし、暮らしの理由や目的も分かりません。

天地を創造した神、万物と人類歴史を治める神、救い主を送って下さった神に対する真実な認識は神様の啓示でよります。なぜ住んで、どのように生きるべきかに対する真実な認識も神様の啓示でよります。
歴史の終末と天国や地獄に関する真実な認識も神様の啓示でよります。この啓示を記録された本が聖書です。それで聖書を読んで学ぶ有益や喜びは他の何で比べられないのです。
神様の啓示を記録した聖書によって救いに関する正しい認識を持つようになりました。主を喜ばす事、歳月を上手く使って行く事、神様の恵みと権能の体験が出来ることなどに対して正しい認識を持つようになりました。

次は積極的な実行に関して話して上げます。

＜絵なかの餅＞と言う言葉があります。絵のなかの餅は満腹させません。真実を認識しても実行しなければそのようです。
聖書はその事実を教訓出来る事件が多く記録されてあります。
モーセの導きでエジプトを離れたイスラエル民はシナイ山の近くに到達しました。
モーセは戻って、主のすべての言葉とすべての法を民に読み聞かせると民は皆、声を一つにして答え「わたしたちは、主が語られた言葉をすべて行います」と言った。
その後、モーセは山に登って四十日四十夜を山にいた。その間を待てなくアロンを圧迫して金の子牛を造りその前で敬拝した。
彼らは神様の臨在と権能を体験しました。直接話す神の音声も聞きました。
そして、**『あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。**
あなたはいかなる像も造ってはならない。
上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。
あなたはそれらに向かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。』（出２０：３-５）
彼らは神様の命令を明確に認識しました。しかし、実行はしなかったのです。正しく認識するのとその認識通りに行うのがひとつになるべきです。そうでなければ、正しい認識は無駄になります。
サウル王はタビデを猜忌してタビデを殺そうと追跡しました。一度はサウル王が三千名の兵士を連れてタビデを殺すため追跡してハキラの丘に陣を敷いた。
ダビデはアビシャイを連れて夜中にサウルの幕営へ潜入しました。サウルが眠り込んでおり、彼の槍はその枕もとの地面に突き刺してあった。
アビシャイはサウルを殺せるように要請しましたがダビデは許さずサウルの枕もとから槍と水差しを取り立ち去ったのです。
そしてダビデは向こう側の山頂に登つて大声でサウルの軍の将軍ネル子アブネルに向かって呼ばわった。「お前はなぜ自分の主人である王を守れなかったのだ。さあ、枕もとの槍と水差しがどこにあるか見てみよ。」
ようやくサウル王は事態に気づきました。ダビデの名前を呼んで確認しました。ダビデがサウル王に言った。
「わが主君はなぜわたしを追跡なさるのですか。わたしが何をしたというのでしょう。わたしの手にどんな悪があるというのでしょうか。」
その話を聞いたサウルは自分が罪を犯した事実とタビデが王の命を大事にしてくれた事実、しかし、自分が愚かだったのを認定して大変悪かったと許しを求めました。

サウルはタビデが自分を殺す機会を避けた事実を確認して、タビデは正しい自分は不義だとはっきり認識しました。でも、認識を積極的に実行しなかった。いくら過ぎない内に変心しました。
事実を確認して真実を認識するのが大変重要です。しかし、その認識した事実を従い行われなければ何の価値もない無駄になります。
ネブカドネツァル王の金の像の除幕式で御命令を無視して、お建てになった金の像を拝めなかった「シャドラク、メシャク、アベド.ネゴにもう一度金の像の前に拝むことの機会をくれました。
そして、もし拝まないなら、直ちに燃え盛る炉の中に投げ込ませると言っています。
しかし、ヘブライの三人の青年は大胆に王に答えた。「ネブカドネツァルよ、わたしたちのお仕えする神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができますし、必ず救ってくださいます。そうでなくとも、御承知ください。わたしたちは王様の神々に仕えることも、お建てになった金の像を拝むことも、決していたしません。」
ネブカドネツァル王は怒り、炉をいつもの七倍も熱く燃やすように命じて、三人を縛り上げ、燃え盛る炉に投げ込ませた。
ところが、驚くべきことに炉の中に入った３人の青年は自由に歩き通っていました。
驚いたネブカドネツァル王は燃え盛る炉の口に近づいて呼びかけた。「シャドラク、メシャク、アベド.ネゴ、いと高き神に仕える人々よ、出て来なさい。」すると、シャドラク、メシャク、アベド.ネゴは炉の中から出て来た。
彼らは体も損なわず、髪の毛も焦げてはおらず、上着も元のままで火のにおいすらなかった。
ネブカドネツァル王は言った。「シャドラク、メシャク、アベド.ネゴの神をたたえよ。
わたしは命令する。いかなる国、民族、言語に属する者も、シャドラク、メシャク、アベド.ネゴの神をののしる者があれば、その体は八つ裂きにされ、その家は破壊される。まことに人間をこのように救うことのできる神はほかにはない。」
ネブがトネチャル王は主なる神は生きて居られる全能の神とを認識しました。では、自分は従いませんでした。
正しく認識するのとそれを真実に従い行って生きるのは一致すべきですがそうでは無かったのです。

神からの啓示がなければ霊的なことは誰も正しく認識出来ないはずです。我々は聖書を通して神様の啓示や御旨を分かるようになります。
救の努めを知り主様に喜ばす道も分かります。それから死の意味も死後の世界に対しても知るようになります。歴史の終末と終末に起きる様々の不思議なことも知ります。
このように人生にあって必ずしもあるべき重大な問題に対して正しい認識をした人に求めるのは、認識した通りに実行すべきです。
我々は金の子牛を拝んだイスラエル子孫のように話しばかりで実行しない人、サウル王のように真実を知って認定しても過ちの行動を直せない人、ネブがトネチャルとダレイオス王のように正しく認識しても自分に適用しない人にはならないように願います。
愛する皆さんは聖書に示された言葉に因って得た正しい認識に従い積極的な実行で生きる生活が出来ますように祝福いたします。アーメン